

令和6年度 佐賀学園高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標

建学の精神(「産業界の第一線に貢献する人材の育成」)と校訓(「創造」「躍動」「貢献」)を尊び、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせる教育を実践する。

2 学校経営ビジョン

- ① 県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ② 基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③ 生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④ 部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

60年以上にわたって築かれた伝統の継承と未来に向けた更なる学校の活性化に向け、職員・生徒一体となった学校づくりを目指す。「心一つにみんなで創る佐賀学園」をキャッチフレーズに、生徒一人ひとりの「人間力」を向上させるために次の3つの心を育てる。

- ・向上心: 夢に向かって勉強や部活動に打ち込み、自己を高めていく心
- ・自律心: 社会的マナー・服装等を整え、清く正しい生活をめざす心
- ・思いやりの心: 人の心の痛みや苦しみを思いやれる心、ボランティアの心

【日々の取組み】

- (授業)
- ・教職員が日々自己研鑽に努め、主体的に授業に参加できるよう分ける授業・生徒を惹きつける授業を実践する。積極的に授業研究会等への参加、校内研究授業の実施により、更なる指導力の向上に努める。電子黒板やタブレットも効果的に活用し、新しい時代の教育の在るべき姿を模索する。
 - ・毎朝のLトレ、スタディサプリなどによる基礎学力の定着を図る。
- (部活動)
- ・部活動加入率を高め、その充実・強化については主体性を育み、効果的な活動を通して更に力を注ぐ。文化部・運動部を含め、5部以上が県レベルで1度は優勝することを学校の目標とする。
- (キャリアデザイン)
- ・主に総合的な探究の時間において、生徒一人ひとりが将来の自分の生き方をデザインできる力を育む。年間指導計画のもと、進路ガイダンス、大学・企業訪問、産業界で活躍する方の講話、地域課題解決など様々な実践に取り組む。
- (人権・同和教育)
- ・人権・同和教育の充実を図り、差別を許さない心、障害のある人・在留外国人・LGBTなど様々な人々との共生を受け容れる心を育む。
- (SNSに関する指導)
- ・スマートフォンなどによる不適切な情報発信、犯罪被害・加害防止のため、校内使用ルールの厳守や学年集会等での啓発指導、外部講師による講演等により、常に注意喚起する。
- (学校開放講座・地域交流の実践)
- ・学校全体の取組として「佐学マルシェ」を位置付け、情報処理科・商業科の活動を中心として課題研究の紹介や販売実習など、地域の方々に参加できるように実施する。
 - ・ボランティア部に限らず、生徒会や部活動単位でも、積極的に地域へのボランティア活動を行う。
 - ・吹奏楽部はコンクールだけでなく、地域や小中学校・特別支援学校へ向けて交流演奏を行う。
 - ・学校以外の方々にも頼りにされる、活躍する生徒を増やす。

4 前年度の成果と課題

- ・入学希望者増に向けた取り組みの強化…普通科の大学進学実績向上、情報処理・商業科の方向性検討
- ・効率的な教員研修による指導力の向上、ハラスメント防止教育の実施
- ・1人1台タブレットの更なる活用…Classi、スタディサプリの有効性の確認
- ・大学進学・就職に向けた指導体制のシステム化…小論文や面接等の担当者を指定
- ・優しく思いやりのある心の育成…SNS問題等への理解と対応・予防教育の実施、人権尊重意識の醸成
- ・校内美化の徹底…清潔感のある「場・雰囲気」を整え、学びの環境を作る。
- ・部活動の更なる活躍と在り方の検討…科学的なコーチング、休養とのバランス
- ・業務効率化の推進…ペーパーレス化、デジタル採点の導入、業務内容の取捨選択

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	・本年度のキャッチフレーズ及び重点目標(「人間力の向上」)を生徒・保護者に周知することができたか。 ・本年度の重点目標にある3つの心を生徒に浸透させることができたか。 ・本年度の重点目標の「日々の取組み」について、職員がよく取組み、成果を挙げているか。	・学校評価アンケートにより、本年度のキャッチフレーズ及び重点目標を「知っている」以上の生徒・保護者の割合を50%以上とする。(昨年度 生徒21%、保護者25.8%) ・SNSを使った問題事案(他者への誹謗中傷)や人権侵害にあたる発言をするといった事案を発生させなかったか。 ・日々の取組みについて、担当分掌等が主体的に取組み、職員全体が中学校説明会やオープンスクールにおいて、十分にそれらをふまえて学校PRを行い、生徒募集に反映できたか。	・全校集会やSNS、ホームページ等を活用して生徒及び保護者に本年度のキャッチフレーズ、重点目標及び3つの心を伝える。 ・学校の教育活動をファンページで示したグランドデザインを改訂し、生徒募集に活かす。 ・「日々の取組み」について、校長は担当分掌の部長や学年主任と協議し、進捗状況を確認する。 ・校長は授業視察を行い、それを基にした職員との面談の機会を増やす。また、研究授業の実施や教科ごとの指導検討会等を開くよう促す。 ・校長は、部活動の取り組みを随時視察する。 ・校長は、外部機関や地域との連携を積極的に図り、担当分掌や学年が動きやすいように情報を収集し提供する。
	生徒募集(広報活動)	・募集定員を確保できたか。 ・本校の魅力や特色を中学生、保護者及び中学校に正しく伝えられたか。 ・広報と募集が一体化し、パンフレット・HPの充実、PRビデオ・グランドデザインの作成と活用が図れたか。 ・オープンスクール及び佐学セミナーの参加人員は増えたか。 ・全職員が一体となって募集活動が行えたか。 ・特進コース及び進学コースの生徒を増やすことができたか。	・推薦105名、専願70名、併願80名を目標とし、定員255名を確保する。 ・本校を身近に感じてもらえるよう、従来のパンフレット、チラシ等に加えて、SNSを活用した情報発信を行う。 ・全職員による中学校訪問を行う。また、特進コースの教員と連携しながら塾訪問を行う。	・前同様に陥らないよう、事業の検証・効果の確認を行う。 ・募集関連事業の実行委員会に限らず、職員から斬新なアイデアを広く求める。 ・立地の良さ、進路・検定取得実績、生徒一人一人に寄り添った教育プログラム、活発な部活動の実績をアピールする。また、普通科の各コースの特色をアピールする。 ・部活動顧問と協力し、特技奨学生、学力奨学生を増やす。 ・国の就学支援金制度、本校の優遇制度などの充実したサポートについて周知する。 ・学校行事に組み込まれた佐学マルシェも本校のアピールとなるので、対策室としても活動に協力する。
	学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・コミュニケーション能力の更なる向上を図る。 ・各自が担当業務の処理能力向上を図る。	・来校者や架電者の立場に立ち、正確かつ迅速な対応を心掛ける。 ・優先順位、時間管理を意識した業務遂行を実践する。 ・気持ちの良い挨拶の励行を継続する。
	職員の指導力向上	・電子黒板やタブレットを効果的に活用した授業ができたか。 ・学習指導要領の改訂や、社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が豊富で、わかりやすい授業ができたか。 ・定期考査(中間・期末)の問題は充実したか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加し、指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。 ・教育センター研修講座に3年間で1回以上参加する。 ・教員それぞれ、電子黒板、タブレットを活用した授業を意識して実践する。 ・各教科で研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・各教科会で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる。
教育活動	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立 ・「分かる授業」、「生徒を惹きつける授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・電子黒板及びタブレットを有効的に活用する。 ・各教科会を機能させ、「分かる授業」、「生徒を惹きつける授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。また、全職員が授業評価の達成度80%以上を目指す。 ・日常的に課題を課し、評価する。 ・生徒一人ひとりに寄り添った指導を行う。
	進路指導	・各学年における進路ガイダンス等がキャリア教育に活かされ、進路意識が具体的な行動に反映されたか。 ・進路実現に必要な基礎学力がついたか。 ・生徒の覚悟ある進路実現に繋がったか。	・学年に応じた、多方面からのアプローチによる進路ガイダンス等を計画、実施する。 ・受験に対応した学力の定着と校内学力判定テストや到達度テスト、基礎力診断テスト等による学習力の向上を図る。 ・就職内定率100%、国公立大学合格率アップを目指す。	・大学進学希望者に対する長期休業中のセミナーの開催や個別指導を実施する。 ・3年生に対する総体の勉強会、夏季休業中の進学対策と就職対策の学習会や小論文・志望理由書、履歴書の書き方指導を行う。 ・学校説明会や企業説明会に指導者として積極的に参加し、上級学校や企業の研究を行い、進路指導部と学年団で進路情報を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、進路講話を効果的に取り入れるなど、充実したキャリアデザインタイムを計画する。
	生徒指導	・交通ルール・マナーは守られているか。 ・公共利用マナーの意識向上に努めてきているか。 ・正しい制服着用はできているか。 ・思いやりの心を持ち、自分を大事にしているか。 ・正しく自己判断ができているか。	・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他者に対する思いやりの心を育む。 ・制服を正しく着用する。 ・SNSによるトラブルには十分に注意する。	・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。加害事故0を目指す。 ・生活習慣の向上を意識させる。 ・全校集会、学年集会を通じて、内面的指導を充実させる。 ・生活の中心にスマートフォンがないようにする。 ・自己判断能力とともに、信頼できる大人や友人に相談できる力を養わせる。
	環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・自ら清掃活動に参加しているか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・校内美化意識を向上させる。	・美化コンクールを実施する。 ・ペットボトルの分別を徹底する(ラベルを剥がし、キャップは別に回収) ・全員清掃の時間を減らし、清掃用具の不足を減らし、清掃する環境を整える。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を身に付け、人間性を高めることができたか。 ・学校の活性化につながる事ができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任、副担任及び顧問との連携を密にし、各部活動の部員数を増加させる。 ・優勝旗5本を目指し、全国の舞台を経験できるように強化する。	・文武両道が実践できるように、部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。 ・競技力の向上だけでなく、多様な活動にも重点を置く。 ・部活動の活躍や魅力を校外に発信する。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・学級担任・学年主任・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校又は教室への復帰がなされたか。 ・教育相談室登校の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、友人関係を築き、所属学級へ戻る事ができる。 ・教育相談室での学習や学校行事に関心を持って取り組み、達成感を得る	・職員が一つのチームとして保護者と連携を図りながら生徒をサポートする。 ・カウンセラーを充実させ心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようにサポートする。 ・Q-Uを活用し、生徒が安心して過ごせる学級作りを行うためのサポートを行う。 ・発達障害等を抱える生徒への対応についての研修会を行う。 ・学級担任及び教科担当者との連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力の定着を図る。
	マナー指導	・社会的マナーを身に付け、服装等を整えることによって、清く正しい生活をめざす心を養うことができたか。	・学校内外での立ち居振る舞いについて、TPOに応じた行動をとることができる。	・ホームルームや学年集会等を通じて継続的に講話を行うとともに、生徒会と連携したマナーアップ運動を展開する。 ・全職員による服装等の指導強化週間を設け、学校全体での取り組みであることを意識させる。
	生徒会活動	・校内外の問題を自主的に考え行動し、社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・生徒指導部職員とともに校則の見直しを協議する。	・生徒会での議論を増やし、関連分掌・学年・学級の垣根を越えて連携を図る。 ・生徒会主体の行事の事前準備、企画運営を通して組織の在り方を体験を通して学ぶ機会とする。
キャリア教育・Lトレ	・Lトレの学習内容を理解させて、生徒に基礎学力を身につけさせることができたか。 ・キャリアデザインタイムを通じて、自分の将来について真剣に考え、個々の適性に合った進路選択や実現を目指した取り組みができたか。	・Lトレ及び到達度テスト・基礎力診断テストを活用して、GTZの値がD2ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。 ・生徒への定期的な面接や進路ガイダンス、諸検査を通じて自己の適性を知り、日常の教育活動の中で自己表現力や礼儀作法を身につけることを目標とする。 ・3年次の進路決定を目指した取り組みの際には個々にあった適切な面談を行い、卒業後の進路変更や早期離職につながらないことを目標とする。	・Lトレを通して、学力向上に直結する動画配信を行い、定着させたい学習内容を常に精査する。 ・全職員が生徒に学習内容を定着するために予習を行い、より効果的なフォローアップが出来る体制づくりに取り組む。 ・確認テストや基礎力診断テストを分析しながら、長期休業中や放課後の学習会を通して、学力向上につなげる。 ・面接における質問内容や実施方法について、職員研修等を実施しながら、生徒への適切な指導や助言内容の充実を図る。	